

Acu-journal

発行所 M・S・A会事務局

〒150東京都渋谷区宇田川町

36-6新大宗宇田川ビル

(株オリエンタル・リサーチ内)

編集者 谷 美智士

発行人 間中 喜雄

M・S・A会 (Medical Study of Acupuncture) 会報誌

北京にての 中国学会に参加して

会長 間中喜雄



針灸・針麻酔討論会の意義

本年6月1日から6月5日まで、中華人民共和国の北京で、針灸並びに針麻酔のシンポジウムが催されました。

主催は中国医学会で、中国に於いてはこの種の会としては初めて、外国から90人以上もの参加者を招き、国内からは、300人以上の人が発表を行った。

中国は文化革命以後、対外的な学術活動はほとんど停止しており、学術書でも大多数の発行が停

止され、学問的活動も、非常に制限されたように聞いている。

今度初めて、四人組が追放になり、文化的活動も、大いに近代化しなければならないという動きが出てきたので、この大会もその一つの現われだと思ふ。

この会で、発表された中国側の研究発表は、非常に程度の高いものが多く、ことに針麻酔の基礎的研究の面では、いろいろな近代的な手法を、縦横に活用して、良い研究がたくさん発表されており、何よりもこの研究の量の多さには、圧倒され

目次

北京にての中国学会に参加して.....	間中喜雄	1
第16会M S A 会例会報告.....		3
物理的刺刺激と神経伝達.....	鈴木裕視	3
ペインクリニックに於ける鍼治療について.....	北出利勝	4
東洋医学の導入も顕著な歯科界の現況.....	松平邦夫・福岡 明	5
Dusseldorf 大学訪問記.....	森 萬寿夫	7
国際東洋医学協力会ソウル大会に出席して.....	鈴木 尚	9
事務局だより・あとがき.....		10

た。というのは、研究者の層も厚く、かつ、中国全土で非常に組織的な研究活動がなされているため、症例も数百例、あるいは千例以上というような多数の症例が報告されるのである。

外国から参加した学者は、この方面では、すでにトピックにのぼっているような一流の方々が多く、非常に意義のある会であった。

ただ講演内容が、ほぼ、すでに各地の学会で行なわれ、かつ雑誌にも発表したものが多く、やや二番煎じの感があったようだが、それにしても、5日間5つの会場で行なわれたこの学会は、異常な盛観と言わざるを得ない。

一つ気がついたことは、中国は日本の研究に関しては、かなり知識を得ているが、逆に中国でどんなことが又、どの程度のことが行なわれていたのかということをも日本側では、ほとんど知らなかったということである。

勿論、今までに多くの方が中国を訪問し、病院や研究所を参観したと思うが、このような学会があって初めて、どの程度の業績がなされつつあるのかという概略を得られたと思う。その意味では非常に意義深い大会であったと言ってよい。

WHO針灸医学を理解

シンポジウム開催

会の終了後WHOの主催で3日間のシンポジウムがもたれたが、それは針の理論について科学的な基礎に対する理論をつくり、針の効果がある種の病気にどのように効くかということを知らしむる目的、そして、このように証明された事実を、WHOがその加盟国に伝える事、ことに、発展途上国でこの針治療とか針麻酔とかをいかにして、普及させることができるか。又、針の教育研修をどのようにして発展途上国につくりだすことができるか、あるいは保健事業に対して針をどのように結びつけることができるか、というような事を、討論し、WHO勧告として、各国にレポートを出すための草案をつくるのが、このシンポジウムの大きな目的であった。

参加者の中にはウィーンのピシュコ、フランスのニボワイエ、それから中国側からは上海の中

医学院のコ教授、北京の医科大学の李教授、その他フィンランドの麻酔の助教授であるポンチネン。パキスタンのキングエドワード医科大学の神経学の教授のバイヤト、アフリカからは、ガーナのアブジャンフィ、ナイジェリアのソディポ。シンガポールのシュウ。スリランカのソプラマニアン。ニューヨークの生理学の教授のカオ。コペンハーゲンの市民病院医であり、麻酔医のソレンセン。というような人々が、3日間カンヅメになって、文字どおり、朝から晩まで熱心に、討論を続けていた。

ツボの番号制について、

私の提案に全委員賛意

そしてこの討議では、いろいろな点で、各国の見解に食い違いのあることが、明白になった。

一例をあげると、フランスでは医療の発達普及した国では、針は当然、医師の正しい診断のもとに行なわれるべきだというような見解をもち、中国では、たくさんハダシの医者が現存しているという実情は言外に、あまり望ましくないと訴えていた。

また、日本から、ヨーロッパ各国でツボをよぶのに、番号制を用いているが、これは漢字を知らない国民では、やむをえないとしても、この番号制が非常に不統一であるから、統一するという勧告をしてきたが、この案を中国にもっていても、中国側はあまり興味を示してくれない。なぜなら、中国では世界20カ国以上から留学生を集めて針の教育をしており、針を習う以上は、例えば外科を習うのに筋肉の名前を覚えなければいけないと同様に、ツボの名前ぐらい、中国語で覚えるべきだと考えているため、このような便宜的な方法には、あまり関心を示さなかったのである。この大会で私はこのことをとりあげ、「この問題の統一、術語の翻訳の統一、できたら、その定義づけというようなことをWHOが行うべきだ」と主張したがこのことは、非常に、各委員から賛同を受けたことは大変喜ばしいことであった。

更に一点気がついたことは、各委員とも、針に

ついでの問題は、非常に熱心に討議していたにも拘らず灸については、ほとんど無視されたと言った実状であった。

中国の委員も、灸は主流ではないというような意見をふと漏らしていたが、結局、討議の過程で、いまここで針と言っている中には、それと類似の灸、あるいは按摩の針も含まれるという付帯条項をつけることになった。

WHO、針灸医学の導入を

全世界に勧告

このように今や、針灸は、世界的な医術として発展しようとしており、この実情を鑑みてWHOは、これを広く世界各国で医療の一つのシステ

ムとして適確に採用するよという勧告をした訳である。

尚、WHOが草根木皮とか、針治療とかを推進しようとする一つの大きな狙いは、ここ数年のうちに石油危機が深刻化することから医療資源が、必ずや枯渇してくるという状態を推測して、あらかじめそれに対処すべきであるというねらいがあるからであろう。

今後、針灸は、ますます現代医学の脇役としての役目を負わされてくる訳であるが、我々もこのような国際会議に出て、日本の水準を誇りをもって示せるように、研究をすすめてゆきたいものだ、痛感したしだいである。

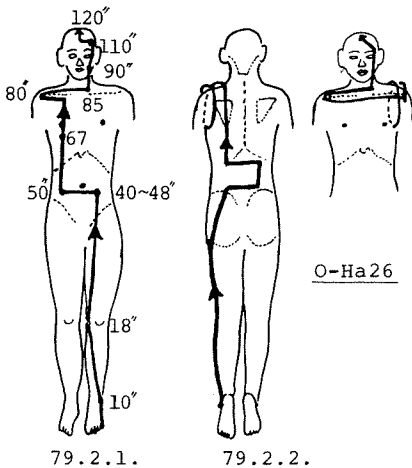
第16回MSA会例会報告

昭和54年2月25日
於 家の光ビル

物理的的刺激と 神経伝達

鈴木裕視

針治療の本治法は経絡の興奮を平均化することであり、いろいろな方法がある。筆者は良導絡症



数値は刺針後ヒビキの進行を時間で測定

図1 複雑なハリのヒビキ経路

候群と関係ある経絡の原穴に刺針中、頭（百会附近が多い）にヒビキを感じる者があるのを発見し、1年間に20例経験した要点を記す。少数回刺針では原穴が頭響現象を発見しやすい。一経絡で頭響を得ると、全経絡にみやすい。頭響を得る部位は限局した小範囲である。ヒビキの進行は多く速である。

遅い場合は経路を辿ることが出来るが、古典の経路と必ずしも一致しない（図1）反復刺針で頭響が現れやすく、頭響点増加の傾向をみる。極端な1例は全身で頭響を得た。ヒビキ経路は次第に複雑化（多岐、遅速、迷走、迂回、循環、中途消滅、その他）を呈す。頭響ある場合は治効極めて良好であるが、頭響を得た後も更に雀啄通電刺激を続け、ヒビキが下降した例があるが、ここまでやるのは好ましくないようである。

痛みを鎮めるのに多くの方法がある。インパルス伝導としてみたとき、末梢神経から中枢に入るインパルスを減す方式と、増す方法がある。現代医学の主流は前者で、経皮刺激療法（ハリ、灸、指圧、マッサージ、温度差、カイロプラクティック、操体療法、その他）は後者である。ハリの鎮痛作用機序について張香桐のすぐれた解説があるが、針刺激のみでなく、温度、皮膚動き感覚（触・圧・

振動覚等・後索路の識別性感覚と密な関係あり）、関節の動き感覚等利用も実用的である。その要点の①は、細い神経の活動を太い神経の活動が抑制する。②は現代医学未解明の多シナプス伝導路（脊髄固有束、灰白質内）が深在性痛みに多く関与し、さらに情緒も関係していると想定している。神経伝導路の面に、東西医学統一の一つの鍵をみつめようと志向している。概要を表 1、2 に示す。

表 1 神経線維の太さと生理学的性質

神経線維の分類	有 髓			B	無 髓 C
	A				
	α I 群	β γ II 群	δ III 群		
存在部位又は対応感覚	a) 筋伸長 b) 腱伸長	皮膚動き感覚 関節覚	温度覚 表在性痛覚 深在性痛覚	交感神経 節前線維	温度覚 深在性痛覚
直径 (μ)	22 ~ 12	12 ~ 5	5 ~ 1	3 ~ 1	2 ~ 0.5
順 応	速 ← → 遅				
閾 値	小 ← → 大				

表 2 末梢性痛みの特徴

表 在 性 疼 痛	深 在 性 疼 痛
局在性大、速痛、鋭い痛み、III群（A δ ）、順応速圧迫・酸素欠乏に弱い	局在性小、遅痛、鈍痛、灼熱感IV群（C）、順応遅コカインに弱い
脊髄視床路（少数ニウロン） III～IV群間に密な連絡があって正常状態ではIII群の活動はIV群の活動を抑制する	比較的散在する伝導路（多数ニウロン） 脊髄灰白質中を上・下に走り、白質が切断されてもインパルスは視床に達す（個々の経路は未解明）
痛みインパルスに修飾（加重・抑制・変更・中枢からの影響）が加る最初の段階は脊髄後角の膠様質でゲートコントロール説の場が考えられる。痛みインパルスは大脳皮質中心後回（場所の認識）の他、広範な大脳皮質、大脳辺縁系、脳幹で総合・分折をうけ、運動・自律神経・情緒反応をおこす。	

ペインクリニックに於ける

鍼治療について

“特に顔面の疾患に対する鍼治療”

大阪医科大学 北 出 利 勝

従来、ペインクリニックに於ては、神経ブロックが治療の主流であったが、本大学ペインクリニックでは、十数年前より、疼痛に対して、鍼治療

を応用して来た。その経験にもとづき、神経ブロックと、鍼治療の効果について、比較検討した。

1) 頸筋痛——これについては、鍼のみによる

もの、神経ブロックのみによるもの、両者の併用によるものと、3つに分けて考えても、鍼治療は、神経ブロックに比して、稍勝るとされる。

2) 頭痛——有効例175例の検討に於て、鍼のみによるもの、或は、両者の併用療法か、神経ブロックより勝る。

3) 頭部外傷後遺症——鍼、神経ブロックの併用療法が有効。

4) 三叉神経痛——神経ブロックの方が有効、鍼のみによる治療では、有効率は3%程度と低い。

5) 不定型顔面痛——神経ブロック、鍼治療等、種々の併用の方がよい。

6) 顔面痙攣——神経ブロックの方がより有効。

7) 顔面神経麻痺——鍼治療と、神経ブロックの併用が有効。

8) 肩こり——鍼治療の独壇場である。

9) 五十肩——鍼、或は、神経ブロックとの併用が有効。

10) ヘルペス後神経痛——神経ブロックの方が有効。

11) 鞭打ち症——新鮮例、陣旧例に分けて、治療回数は夫々異なるが、鍼治療は有効である。

治療方法

1) 三叉神経痛及び、不定型顔面痛

第一枝：陽白、晴明、瞳子膠

第二枝：四白 迎香、顴膠

第三枝：地倉、大迎、頰車、承漿

その他、下関、上関、曲池、天柱、風池、風府、肩井、百合、全身基本点、背部基本点

2) 顔面神経麻痺

経穴は、三叉神経痛と大体同じ。

患側に低周波通電、健側に置鍼等、種々の組合せがある。

3) 顔面痙攣

合谷に低周波通電、顔面に軽い置鍼等。

4) 顎関節症

上関、客主人、下関、顴膠、聴宮、聴会、合谷、完骨、豊隆、大鐘、公孫、陽輔等、。

尚一般に、選穴にあたっては、経絡にはあまり重点をおかず、局所の圧痛を主にする事が多い。尚、低周波は大体、3Hg、時間は10~20分位である。その他、低周波ツボ表面療法にも言及した。

(三浦輝雄記)

東洋医学の導入も顕著な 歯科界の現況

歯科部会 松平邦夫
福岡 明

東洋医学の適用が歯科領域に於いて如何に効果が大きいかは周知のことであるが、ここ数年その歯科界に於ける実態は大変喜ばしい方向にある。WHOの東洋医学の見直しと、近代医学へのアプローチという勧告によって医学界と共に、歯学界においても一層の進歩発展をみることであろう。

それにつけても、この東洋医学の歯科界導入の基礎作りを果し、又現在でもその推進力となって

いるのは、実にM S A会歯科部会の真の努力であることは自負してもよいと思う。

教育面に於いても、日大松戸歯学部谷津三雄教授の麻酔講座には必須課目として、学生に実に、300分(5年次240~300日大口腔科学, 77)の東洋医学の講義がなされており、又、各歯科大学の口腔外科、麻酔学、ペインクリニックや保存学などの講座でも、針灸医学の講義やポリクリがなされて

おり、このような風潮こそ日医武見会長の勧告にある通り、西洋医学で満足できぬ面は素直に東洋医学の導入が必要であり、徒らに西洋医学の見解のみで東洋医学を判断すべきでないという至言の具現であるかもしれない。

去る6月17日の第30回日本東洋医学会学術総会に於いても歯科医の発表が賑々しくなされた。

本会副会長松平邦夫他は、「バネ式集毛針（接触針）の歯科領域における治験例について」を発表し、松平氏の考案による12本の集毛針に電動式バイブレーターを附したKM式シン圧針で合谷その他の経穴に刺激を与え、ハリ麻酔と同様の効果を得、簡単な抜歯の他に、歯痛、開口障害、口角ピラン、抜髄後、根充後、抜歯後疼痛の治療や予防等幅広く適用でき、望外の好結果を得ているとしている。

又、本会会員、花上弘昭らは、「根管充填後の疼痛に対する針灸の応用報告」と題し、歯内療法領域の中で、根管充填後の疼痛の予防と術後疼痛の鎮静に、電経療法及び井穴刺絡療法を中心とした応用で著しい効果を取めたと発表し、単に薬剤の投与と局所歯科処置にのみ依存する現状の歯科処置に新しいサインを与えたものである。

更に、本会理事である福岡明他は、「歯科領域に於ける井穴刺絡の応用とその治験例について」と題し、歯髄炎、歯膜炎、歯槽膿瘍、Pの急性発作、根充後、手術後などの疼痛や不快症状をもった1700例に、井穴刺絡法を適用し、急性炎症時は90%以上の好効果を得、慢性症のものは、その効果の少ないことを発表し、その術式も併せ紹介した。

一方、大学関係では、日大松戸歯大の谷津三雄

他は、「歯学教育における東洋医学教育の現況」について報告し、臨床面の報告では「レイノー現象を呈する患者の針麻酔下の抜歯——針、灸、湯液を併用とサーモグラムの経過観察」と題し、レイノー氏現象を呈する患者に対し、針灸、湯液を術前約2ヶ月間併用し、サーモグラムにより観察をしつつ、ハリ麻酔下で10本の抜歯を行い、四肢と抜歯窩の治療経過に良結果を得たとしている。

又、「副腎皮質機能低下、アスピリン喘息および自然気胸を合併した患者に対する針麻酔による抜歯」と題して、解熱鎮痛消炎剤、防腐剤、人工着色剤にて全身反応を呈し、局所、全身麻酔共に不可能な、3回の自然気胸の経験をもつ47歳の女性患者について1ヶ月半の術前針灸治療後に、ハリ麻酔下で抜歯を試み、成功したと発表し、西洋医学の至らざる面に東洋医学を適用し、リマーカーな好結果を示している。

一方、歯科医学会に於ける活動として、第20回日本歯科医療管理学会総会に於いて、福岡他は、「歯石除去時に於ける東洋医学的処置、特に低周波経皮通電法の利用とその歯科医療管理的意義」

「浸麻時に於ける患者の愁訴に対する東洋医学的対応とその歯科医療管理的意義」

と、二題の歯科処置に於ける東洋医学的思考の導入について啓蒙し、合谷——曲池や他経穴に経皮パルス通電を利用して、スケーリング時の不快症状を軽減させ、又、浸麻時の注射針刺入時の愁訴に対し、患者の自律反応や言語応答を示標として、指圧、経皮パルス通電、KM式シンアツ針などによる経穴刺激がその軽減、緩解に卓効を示したと発表している。

このようなM S A 会会員の活動により歯科領域



当社は、昭和48年2月に創立された東洋医学関連企業です。
東洋医学を研究される先生方のご要望にお答えするため、
また、新しい情報を提供するために、日夜努力いたしております。

株式会社 オリエンタル・リサーチ

東京都渋谷区宇田川町36-6 新大塚宇田川ビル
☎ 03-496-0494

でも年々才才、東洋医学に対する関心が高められている。

又、54年7月17日、韓国ソウル市に於ける第2回高麗手指針セミナーには、前述の谷津、松平、福岡が、夫々1時間づつ特別講演をし、日本の歯科領域に於けるハリ医学のレベルを紹介すると同時に、同行の歯科医15名と共に、柳泰佑氏の考案した高麗手指針の研修も併せ行い大韓民国針灸学

会の名誉会員証を与えられ、これからの幅広い当該活動の糧とすることができた。

このような東洋医学普及活動が歯科領域において、益々好転の方向を示している中には、MSA会に於ける研修や医科を含めての情報交換などによる実のある会員相互の Co-operation があればこそと筆者も感謝している次第である。

会員コラム

Düsseldorf 大学訪問記

医科 森 万寿夫

昨年6月かねて念願のオーストリアのチロル見物をしてみようと思いつて北米まわり独逸へと旅立ちました。在独の友人出水君にいっさいのスケジュールをまかせておきました。

ジュッセルドルフ空港に迎えてくれた出水君日く、知己のワルタードヨルン先生と打ちあわせた結果、ジュッセルドルフ大学（以下 Uni とする）の脳神経研究センターの Prof.Dr. Adolf Hopf 先生と面接することや、開業医（針術）の Dr. med. Hans Petersohn 夫妻のクリニック訪問の予定にしていることを知らされ、予期外のことでおどろきました。翌日はドヨルン先生の御自宅をお伺いしましたが、約束の正十時に玄関につきますと、先生は玄関の前に直立不動の姿勢で待つて

いてくれ大歓迎の言葉でむかえられました。76歳の退役開業医で、独逸歩く会のリーダーで、かくしゃくとしておられ、日本にも何度もきたとかで大の親日家です。この日はドヨルン先生のライ

DÜSSELDORFER
UNI-ZEITUNG 4

Z. Jahrgang, Nr. 4

JULI 1978

フワークの話をしき翌6月13日、ドヨルン先生に連れられ Uni に Prof. Hopf を訪ねました。たくさんの方が集っておられました。Prof. H.G. Goslaj, Prof.H.Biittger, Dr.R.Pothmann などで針術に興味をおもちの先生方の方でした。まずはじめに、昔風の独逸の大学らしい、いささか仰々し

下半身の機能低下による諸症状に…

7 ツムラ八味地黄丸

ツムラハチミジウガン
エキス顆粒(調剤用)

健保適用

★ツムラ医療用漢方製剤についてのお問合わせ、および学術資料のご請求は

- 本社・医専営業本部：東京都中央区日本橋本町2-1-1 ☎03(243)1311(代) ● 札幌 ☎011(551)1165
- 仙台 ☎0222(63)5393(代) ● 名古屋 ☎052(763)3741(代) ● 金沢 ☎0762(21)2650(代)
- 大阪 ☎06(251)4193(代) ● 広島 ☎0822(93)5911(代) ● 九州 ☎092(472)0425(代)へどうぞ。

漢方を科学する

ツムラ

株式会社 津村順天堂

Japaner kündigen als Gastgeschenk ein Elektro-Akupunkturgerät an



い歓迎の言葉と列席者の紹介があり、当方も謝辞をのべたあと、Uni Zeitung（大学新聞）の記念撮影をおわって別室にはかんたんなパーティの用意もしてありました。パーティになりProf. Hophと並んだ席にこしかけましたところ、彼が、どの大学を卒業しましたかときくので、九大ですと答えると、池見教授を知っていますかとふたたび問うので、ええ、九大第三内科でしばらく一緒に勉強しました。私より一級下のクラスでしたと答えました。九大にも行きましたとかで、英文の九大の学術雑誌（誌名は忘却しました）を持ち出してきて、私もその学術委員ですよと、名をつらねているところを指さされ私はおどろいてしまいました。

それからすっかりリラックスしてしまい、針灸についての私見や日本の医師の針灸の状況などを話しあいました。ベテランの出水君も医学用語の通訳に困って私にきくので、それは、こういうのさと教えていたら、Prof. Hophが笑いながらDr. Moriは独逸語よくわかるじゃないですかとお世辞をいっておられました。M. S. A.会のことも大いに宣伝しておきました。帰国したら、ボスの間中先生にも報告し、いつか機会を得て間中先生らと共に大挙してUniを訪問したいと申したら、是非交流しよう大歓迎しますよとのことでした。

秘書に命じて作成されたのでしょうか、独逸の針灸団体名や針術をやっている医師の状況のアウトラインを調査したレポートまで用意してくれました。その日の午後は、小児科のDr. R. Pothmannのさそいで、彼の外来での針術の臨床をみせてもらいました。中国式の針術やレーザー光線を使用する針術器械（試作器）による針などをみせてくれました。彼はドイツ-セイロン針学会の地区主任指導者であり、早速私にDeutsch-Ceylonischen Akupunkturgesellschaftの名誉会員の証明書をかいてくれてスリランカでの針学会に是非出席するようにとすすめられました。

日本の無名の一針灸医師がUniを訪問したにもかかわらず、多忙な時間をさき又同好の士をあつめて歓待され恐縮した次第でしたが、これもDr. W. Doehrn先生の紹介と世話であったればこそであり、Dr. Doehrn先生とは友人出水君のコネということであったわけです。20年前の外遊のときも、無名の医師が単独でも、紹介者がよいと、有名な大学教授や大先生も、ちゃんと会ってくれ色色と便宜を与えてくれました。今回もまさにその通りでした。欧米では医師の社会的信用は絶大なものがあり、又紹介状が非常に尊重されるものようです。

Uniとのコネの一役をになえたら幸いです。

国際東洋医学協力会 ソウル大会に出席して

歯科 鈴木 尚

4月27日は晴天であった。間中先生、谷先生、松平先生、らMSA会の幹部の先生を中心に「国際東洋医学協力会ソウル大会」へ出発する日である。集合場所となった銀座東急ホテルのロビーは、この会へ出席する顔見知りの先生方の挨拶や談笑があちこちにみうけられる。やがて添乗員のジャパンインターナショナルトラベルの社員が我々の点呼をとり始める。いよいよリムジンで成田へ向けて出発である。外は4月にしては暑いくらいだ。私にとってソウルは2度目だが、どういう訳か？韓国への旅というと大声で宣伝出来ないきらいがある。回数が多くなればなるほどそんな気がすると思うが今回は別である。学会という大儀名分がある。それでもまだ御自分の行動に自信のもてない人(失礼)は奥様同伴である。谷先生をはじめとして若いカップル、お年寄りのカップルなど、何組かおいでになられた。しかしこれから回を重ねるごとにこの様な傾向になることを会長も望んでおられることだろう。金浦空港の税関というのは何故か明るい雰囲気ではないと記憶していたが、今回はフリーパスに近い、東洋医学協力会の創立総会出席を歓迎してか、団体専用口からOKである。宿泊所のロッテホテルは素晴らしい建物である。現地の添乗員の言葉を借ると、東洋一だそうで、ソウルのどこを案内していただいても、東京のどこそよりも大きいとか、広いとか、何かにつけて日本と比較したがるのには驚いた。韓国がいかに日本を目標にし、努力しているかを真そこ見た思いがする。全体的な水準から較べるとおよそ10～15年の遅れがあるように思えたがしかし現在でも昭和40年代の日本のように経済成長率15%以上というからこのエネルギーにはおどろきである。翌28日美味しい韓国の宮廷料理をいただきながら成宗ホテルで行われた創立総会は韓国側の出席者の遅参が気がかりだったが、柳先生の流暢な日本語をまじえて、終始なごやかにこなされた。



団員の医療奉仕風景

セレモニーが最高調に達するころ、全員に東洋医学協力会のシンボルマークが型どられたメダルが配られた。日本の歌、韓国の歌が次々と出され、国際親善は大いに達せられたと思う。この総会に先立ってこの日の午前中、専売庁を訪れた。いわゆる「人参」の薬効の素晴らしさを強調宣伝する機関と見受けられたが次に訪問した慶熙大学はキャンパスの広さに驚いた。先年ソウルを訪れた時はやはり延世大学の病院を見学したが、この大学も同様に広いキャンパスを持っていた。慶熙大学の附属病院は、西洋医学院と漢方医学病院がそれぞれ独立していてしかも治療に関しては相互交流が盛んであると説明されてユニークな思いがした。

この国には日本よりも古い文化があって、近代化を進めると共に古くからあるものを、大事にしていることがよく理解出来る。私は歯科医であるから一般医学を深く理解することは無理だが自然科学は仮説に基いているものが大部分のように思われる。針灸も、その類にはもれぬと思うが仮説に基いている以上、経験医学もまた重要視されるべきであろう。その意味で慶熙大学で行われた会

長の特別講演は貴重な事実である。

特筆すべきは29日の医療奉仕活動であろう。私は歯科ではお役に立てまいと思ひ参加しなかったが医科の諸先生のボランティア活動は言葉は通じなくともその意は充分に通った筈である。30日楽しいこの旅も市内観光でいよいよ終りとなったが参加された全員がそれぞれに有意義な訪韓であったと信じます。4日間の韓国側の先生方のもてなしに深謝し今回幹事を担当された清水先生以下添乗員の方々に御礼申し上げます。

事務局だより

世話人会を理事会に改名 各分科会で独自の活動を！

2月24日午後5時30分より、第16回MSA会例会終了後、「家の光」新館で世話人会開催。

本会は年毎に発展を続け、会員数も350名を数え、特に歯科部会員は120名に達している。

このような発展と相俟って、例会の講演内容を更に充実し、よりアカデミックなものを望む声が強いことなどを考慮して、次の如き決定をみた。

- 1) 世話人及び世話人会をそれぞれ理事、及び理事会と改称する。
- 2) 年1～2回の総会の他に、医科、歯科の分科会はそれぞれ独自の活動をすることができる。その際、医科は谷副会長、歯科は松平副会長の責任の下に各理事が協力して行なう。但し会員は両分科会に出席が可能である。
- 3) 各分科会に際しては会場費の名目で少額であれば出席者から受講料を徴収してもよい。
- 4) 理事の欠員2名を、それぞれ医科1名歯科1名ずつ推薦し依頼すること。

MSA会医科分科会を 医師東洋医学研究会と併称

医科分科会の理事会は6月11日及び7月5日に開催。MSA会並びに国際東洋医学協力会の発展

のために、会の存在を広く知らしめることが急務として、MSA会医科分科会を医師東洋医学研究会と併記して月1回の定期学術講演会を開催することに意見の一致を見た。

この旨、間中会長に事情説明後了解を得、7月22日(日)に日赤会館で、第17回MSA会医科分科会(第1回医師東洋医学研究会)が開催され、一層の研修の実がもたれた。(事務局)

MSA会役員

会 長	間 中 喜 雄
副会長 (医科)	谷 美智士
(歯科)	松 平 邦 夫

理 事	森 萬寿夫	勝 田 正 泰
	岩 橋 信 種	福 岡 明
	吉 元 昭 治	渡 辺 敏 雄
	吉 田 泰 郎	志 水 弘 史

あとがき

WHOが現代医療に針灸医学の導入を全世界に勧告したというニュースは大変喜ばしい。早いとこ東洋医学にアプローチした甲斐があったと思う人も多からう。MSA会のフィロソフィは誤っていなかったと自負したい。

会員350余名を擁し、国際的な協力体制もでき、更に研究、研修の実を挙げるよう全会員の一層の精進を訴えたい。それにつけてももっと Co-operation を密にさせていただくことを心から願う。

福岡 記

編 集 委 員 会

編集顧問	間中喜雄
編集委員長	谷 美智士
医 科	吉元昭治(副委員長)・三浦輝雄・森 萬寿夫
歯 科	福岡 明(副委員長)・松平邦夫・渡辺敏雄